

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年6月9日～6月22日)

2020年6月24日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領、プーチン露大統領と電話会談(6/19)

●習近平国家主席と電話会談(6/11)

●米国のベラルーシ政府高官に対する制裁、2021年6月16日まで1年延長(6/11)

【ルカシェンコ大統領動静】

●大祖国戦争追悼行事に参加(6/20,21,22)

ルカシェンコ大統領は、大祖国戦争追悼行事の参加のため、モギリョフ州キロフスキー地区ボルキ村、ゴメリ州スヴェトロゴルスク地区オラ村、ブレスト州ブレスト市を訪問した。

(大統領公式ホームページ)

●ラブロフ露外務大臣と会談(6/19)

ルカシェンコ大統領の発言概要は以下の通り。

・私からプーチン露大統領の貴大臣への「こんにちは」を伝えたい。我々は(プーチン露大統領と)開放的で友好的な電話会議ができた。多くの人々が露ベラルーシ間で火花が散っていると思っているが、何も火花は散っていない。問題は常にある。

・我々は両国の関係を検討している。問題は我々も、あなた方も十分である。まずは新型コロナウイルス。そして、あなた方には憲法改正に伴う政治的問題、我々には大統領選挙がある。まさに兄弟国として問題が並行的に存在し、鏡のように反映している。しかし、我々はその問題を解決していこう。そして、それは悲惨なものではない。もし誰かが露ベラルーシを額でぶつけ合わせ、関係を悪化させようとしているのであれば、それは上手くいかない。私はプーチン露大統領に絶対的に賛成である。誰かが関係悪化を期待しているのであれば、それは絶対に起き得ない。情報パンデミック、経済パンデミック、政治パンデミック、石油・ガスパンデミックを含め全てのパンデミックを克服できると確信している。我々は全て克服する。これは我々の力でできる。我々(ルカシェンコとプーチン)はパンデミックの問題を協議した。私は、ロシアで人々

の治療が安定化しているのを見ている。プーチン露大統領は、私に、ロシアで効き目があると公式承認された新薬を提案した。我々は、実際、日本の類似品を使用しているが、あなた方はそれを完成させた。既に保健大臣にロシアから当該新薬を取り寄せ、治療に試すよう要請した。新薬は既にロシアの政府高官に対しての効果を示した。我慢できる状況にあるが、我々も使う。我々は乗り越えられると思う。一緒ならなおさらである。

ラブロフ露外相の発言概要は以下の通り。

・本訪問は1ヶ月前に計画されていた。しかし、衛生的状況が修正を余儀なくした。このたびの歓待、及び、貴大統領と露大統領によって承認された計画を基にして両国外務省間で行われている協力に感謝する。今日、我々がどこまで成果を上げられたかを見ていく。

・全ての方面で、全ての国際組織において、作業は滞りなく進んでいる。本日、両国大統領の合意をもって、ロシア・ベラルーシ両国を訪問する第三国の人々、ビジネスマン、ロシア・ベラルーシで承認されている外交官にとって大きな意味を持つ査証相互認証の国際協定が署名される。これは、連合国家の共同設立の継続において非常によいものと考えられる。

(大統領公式ホームページ)

●プーチン露大統領と電話会談(6/19)

両者は3つのテーマを議論した。第一に、パンデミックである。両国首脳は、ロシアとベラルーシにおける新型コロナウイルスの状況を詳細に協議した。特にプーチン露大統領は、日本の薬剤を基礎としロシアで開発された新薬について述べ、必要に応じて必要な

量をベラルーシでも使用できるよう提案した。ルカシェンコ大統領は、必要な量を購入し、治療に使用すると答えた。二つ目のテーマは、6月24日にモスクワで行われる対独戦勝記念式典についてである。プーチン露大統領は、ルカシェンコ大統領を同行事へ招待した。ルカシェンコ大統領は、自身の子供達と演壇に出席する予定である。また両国首脳は経済状況、今後の展望と接触について協議した。両国首脳は、会談の実施、および現在議題となっている問題を協議することを合意した。

(6/19 大統領公式ホームページ)

●行政責任に関する会議の実施(6/18)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・行政責任に関する法律の変更の結果、採択される法的規則は、人々を邪魔するのではなく、助けるものである必要がある。

・チュプリス大統領府副長官の指導の下、省庁間専門家会議は行政罰に関する法律について作業を続けてきた。

・法律に加え、省庁のマニュアルや規則を変更し、不要な官僚的要求を除去する必要がある。禁止や制限は、国民の生命や健康に害を及ぼす場合や非常事態が発生する場合など、客観的に必要な箇所のみとすべきである。小さな事で人々に突っかかる必要はない。

(6/18 大統領公式ホームページ)

●グロドノ州視察(6/16)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・パンデミックからすぐ脱却する必要がある。ベラルーシ経済は輸出志向であり、世界が新型コロナウイルスを克服するのが早ければ早いほどベラルーシにとって良い。

・先日、習近平国家主席との電話会談で、ベラルーシ製品の中国輸出における習近平氏の支持を得た。また世界銀行がベラルーシへの9千ドルの融資に同意した。

・グロドノ州は、ベラルーシの最も西の地域であり、歴

史的に常に隣人の大きな影響を受けてきた。ソビエト時代、グロドノは最も優れた地域の一つであった。特に農業はこの地域の誇りである。ソ連崩壊後、グロドノ住民の半分がポーランドに出稼ぎに出たとされる。しかし、この25年で地域工業生産量は4倍に拡大し、輸出額は約5倍となった。過去2年で平均給与が2倍になった。

・近く、同州でオストロヴェツ原発が稼働開始する。エネルギー安全保障は非常に重要である。余剰エネルギーの問題は、グロドノ州執行委員会と政府の共通の課題である。原発稼働を通じて、国は経験を得て、専門家を育成していく。安全性については、リトアニアやポーランド、ドイツにとって以上に、あなた方住民にとって、そして、私にとってより重要である。

(6/16 大統領公式ホームページ)

●ヴィテプスク州視察(6/12)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・農業畜産業について、技術面で教えるつもりはないが、飼料の品質には気をつけて頂きたい。

・家庭廃棄物の収集と処理の問題は、今後2~3年で解決するよう要請する。スイスでは、特定の廃棄物のリサイクル率が80~90%に達すると聞かすが、ベラルーシでは50%に達していない。環境を強化し、国を綺麗にする必要がある。

・燃料供給源を拓げる必要がある。我々は隣国から天然ガスや石油を購入するが、我々には泥炭や木くず、ペレットがある。ペレットを使用した発電設備を建設し、既に燃料が生産されている。

・新型コロナウイルスに関して、ヴィテプスク州は他の州より先んじて感染が始まった。しかし一度免疫を得た人々は第二波・第三波に怯える必要はない。

(大統領公式ホームページ)

●カラニク保健大臣と会談(6/11)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・世界では、新型コロナウイルス第二波について多くの話が出ている。現時点で全てが明らかではない。しかし、我々が進んできた道は、全ての国家が進むべ

きであったはずの道であろう。

(6/11 大統領府公式ホームページ)

●習近平国家主席と電話会談(6/11)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・新型コロナウイルス感染拡大対策のための防護用品の送付と、防護用品製造のための機械の送付に感謝する。
- ・中国・ベラルーシの鉄の兄弟関係と全天候的友好を強化する貴国家主席の訪問を心から待っている。
- ・スプロコフ駐中国・ベラルーシ大使は、第一副首相への任命とともに大使職から外れることになるが、ベラルーシは(スプロコフ大使に)劣らない人物を後任として派遣する。
- ・ベラルーシ・中国共同産業特区「巨石」について、現在、同産業特区の入居企業は、15カ国からの60社に上る。

習近平国家主席の発言要旨は以下の通り。

- ・ベラルーシの新型コロナウイルス感染拡大対策を高く評価しており、知見を共有する用意がある。「ベラルーシー中国」という形で知見を共有するためのビデオ会議を開催する用意がある。中国は多くの国と(同様のビデオ会議の)実践例がある。ベラルーシとも個別に行い、必要なものは全て共有する用意がある。
- ・ベラルーシが中国に送付した人道支援に関し、中国国民は覚えており、将来にわたって記憶し続ける。
- ・二国間の経済関係について、ベラルーシの中国への輸出、とりわけ乳製品、牛肉、鶏肉等の食料品の輸出を支援している。輸出に関する問題については、必要な書類を中国の適切な機関に提出してほしい。最短期間で検討されると約束する。
- ・ベラルーシ訪問について、コロナウィルスがなければ、すでに訪問していただろう。対面での会談はより重要であり効率的である。貴大統領に会えることを期待しており、訪問は実現すると確信している。

(6/11 大統領公式ホームページ)

●ナスケヴィッチ共和国捜査委員会委員長の報告聴

取(6/11)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・犯罪や捜査状況に関して、昨年と比べ状況はどうか。特に社会的に重要で重い犯罪については適切に管理されていることが肝要である。
- ・捜査員の準備と質向上のための機関の創設については、焦眉の問題と考えている。

ナスケヴィッチ共和国捜査委員会委員長の報告内容は以下の通り。

- ・2020年1月～5月の状況は昨年同期対比非常に良好であり、犯罪水準は13.5%低下した。

(6/11 大統領公式ホームページ)

●社会政治問題に関する会議に出席(6/10)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・大統領選挙運動において、多くの人々から不満を聞く。特に、民間企業が人々を解雇していることに怒りを感じる。
- ・国营企業にそんな問題はない。民間企業に対し、直近3ヶ月で従業員を解雇した理由を明らかにするための確認制度の作成を依頼する。

(6/10 大統領公式ホームページ)

●国家安全保障における国家当局の活動に関する会議に出席(6/9)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・大統領選挙と選挙活動に関し注意を払っている。選挙活動開始からたった3週間しか経っていないが、全ての候補者が文明的な行為をしているわけではない。法律違反や道徳規準の違反、政府に対する侮辱行為、攻撃的発言が目立つ。目的達成のためには如何なる手段もいとわないと考えるものもある。
- ・国民の共感を得る戦いの中で、彼らが公約に関係のない大衆迎合的スローガンばかりを掲げているが、人々は見抜くであろう。人々は分析し、適切な結論を下すであろう。
- ・立候補のための署名集めが、非合法のミーティングや大集会になってはならない。法律違反は断じて許し

てならない。これを許せば、後で痛い目に遭う。ウクライナでどういう状況に発展したか知っているであろう。
・脅威は、あらゆる方向から来ている。そして脅威は、国家公務員に対して、選挙委員会の指導部に対して、そして彼らの家族に対しても向かっている。治安関連組織、とりわけ検事長、捜査委員会委員長、内務相に対し、これらの問題に更なる注意を向けるよう依頼する。

(6/9 大統領府公式ホームページ)

外交

●マケイ外務大臣、ラブロフ露外務大臣と会談(6/19)

・ベラルーシとロシアは、外国人入国に関する査証相互承認の二国間協定に署名した。署名は、マケイ外務大臣と、ミンスク訪問中のラブロフ露外相で行われた。同合意書は、外国人の露ベラルーシどちらか一方の国における身分証明書を基に両国間の出入国、滞在、通過を行う権利を規定している。外国人は、空路、鉄道に加え、合意書の付属で決められた6つの自動車道を通して入国できる。

・「2018年末に署名できたはず」という書類準備の遅さに対する批判に答える形で、マケイ外務大臣は、「結果が大事である。EUの机に我々の提案や案件がどれだけ長く置かれたか、どれだけそこで検討されたか質問してもよい。」と強調した。

・ラブロフ露外相は、「各協定への署名の期間は、様々である。今回の協定準備から署名までの遅延期間は決して記録的ではない。何らかの外交プロセスがどれくらい時間がかかるかと質問することが正しいとは思えない。この協定の結果として、大きな肯定的な一歩が見られることが必要であり、疑念の歴史を探すことは必要なだろう。」と述べた。

(6/19 国営ベルタ通信)

●マケイ外務大臣、テルテリ国家管理委員会委員長、駐ベラルーシ欧米各国大使に対し、今日発生している事件についての説明会を実施。

(6/18 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、ハーヴィスト・フィンランド外務大臣と電話会談

両者は、ベラルーシ大統領選挙活動や新型コロナウイルス対策に関する情報交換を行った。

(6/18 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、「一带一路」ハイレベルビデオ会議へ参加(6/18)

本ビデオ会議は、2019年6月25日～6月27日に北京で開催された第二回「一带一路」フォーラムの結果に関する一連の行事の枠組みにおいて中国外交部によって開催された。王毅外交部長・国務委員が議長を務め、習近平国家主席の挨拶を読み上げ、テドロスWHO事務局長、シュタイナーUNDP総裁も挨拶を行った。会議参加者は、新型コロナウイルスとの闘い、経済回復への道のり、「一带一路」の枠組みにおける共同案件の実現に注目した。

マケイ外務大臣は、自身の発表において、各国が新型コロナウイルス拡大対策の戦術と戦略を自立して決定する権利に注意を向け、パンデミック問題を政治化することは容認しがたいと強調した。マケイ外務大臣は、WHOの支援に対し謝意を表明し、団結と連帯、相互支援の精神に基づき、WHOや国連との生産的な協力の発展に関心を持つと述べ、ベラルーシ共和国の「一带一路」への参加の文脈において、鉄道輸送やハイテク技術製造分野における共同案件の実現におけるベラルーシの関心を確認し、中国ベラルーシ共同産業特区「巨石」の発展の結果を、ユーラシア大陸におけるシルクロード経済ベルトの鍵を握る輪として指摘した。

本ビデオ会議には、25カ国の代表者が参加した。インドネシア、カンボジア、セルビアからは副首相レベルが参加し、ハンガリー、ギリシャ、エジプト、カザフスタン、ケニア、中国、キルギス、ラオス、マレーシア、モンゴル、ミャンマー、ネパール、アラブ首長国連邦、パキスタン、パプアニューギニア、シンガポール、タジキスタン、タイ、ウズベキスタン、チリ、エチオピアからは外務大臣が参加した。

(6/18 外務省公式ホームページ)

●マケイ外務大臣, オリベル・バルヘリ欧州近隣政策・拡大交渉担当委員と電話会談。

両者は, 6月11日に開催された東方パートナーシップ外相テレビ会談の結果や18日に開催される東方パートナーシップ参加国首脳会談について協議した。

(6/17 ベラパン通信)

●シュベリEU代表部代表, ベラルーシ政府に対し, 大統領選挙に関する懸念を表明

シュベリ代表は, 「現在, ベラルーシでは大統領選挙運動が実施されているが, 基本的人権と自由が遵守されていることが重要である。特に, ベラルーシ政府が政治的な競争の余地を確保することが肝要である。これに関連し, 我々は, 直近発生しているババリコ候補者に対する行為に懸念しており, ベラルーシ政府に法律の遵守と透明性ある捜査を要請する。また, 我々は活動家の解放と, ベラルーシも参加国となっている国連の拷問等禁止条約の完全な遵守を求める。」と表明した。

(6/17 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣, フランソワ・フィリップ・シャンパーニュ・カナダ外務大臣と電話会談(6/15)

両者は, 二国間の交流や経済的な対話, 国際組織における相互協力の発展を協議し, 新型コロナウイルス対策に関する情報交換を行った。

(6/15 ベラパン通信)

●イェルマーク・ウクライナ大統領府長官, ベラルーシ訪問, セルゲエンコ・ベラルーシ大統領府長官と会談(6/11)

両者は, ゼレンスキー・ウクライナ大統領のベラルーシ訪問(注:10月, グロドノ州で開催予定のベラルーシ・ウクライナ地域フォーラムに合わせて訪問予定), 二国間貿易, インフラ分野における協力について協議した。

(6/11 ベラパン通信)

●米国のベラルーシ政府高官に対する制裁, 2021年6月16日まで1年延長(6/11)

(6/11 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣, 東方パートナーシップ外相テレビ会談に参加。

同会談は, 18日に開催される東方パートナーシップ参加国首脳会談に向けた意見交換の場として開催された。マケイ外務大臣は, 新型コロナウイルスによる社会経済的影響への克服に向けた共同作業の重要性に注意を向け, EUによる支援を歓迎すると述べた。また, 外資誘致, 東方パートナーシップ参加国のEU市場へのアクセスの軽減, 資源輸送インフラの発展, 安全なIT技術の導入の重要性を説き, ミンスク市における東方パートナーシップのIT学校設立を提案した。

(6/11 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣, ラブロフ露外務大臣と電話会談(6/10)

両者は, 2020年から2021年にかけて行われる外交行事の相互協力について協議した。

(6/10 ベラパン通信)

経済

●2020年1月～5月, ベラルーシの住宅建設量, 5%増加。

(6/20 ベラパン通信)

●2020年1月～5月, ベラルーシへの貨物輸送量, 9%減少。

(6/17 ベラパン通信)

●2020年1月～5月ベラルーシ域内総生産, 全地域で減少。

各地域の総生産減少率は以下の通り。

ゴメリ州 -2.9%

ミンスク州 -2.8%

ヴィテプスク州 -2.7%

モギリョフ州 -1.7%

グロドノ州 -1.6%

ブレスト州 -1.6%

ミンスク市 -0.2%

(6/17 ベラパン通信)

●2020年1月～5月ベラルーシ国内総生産、昨年対比1.8%減少

(6/16 ベラパン通信)

●ベラルーシ企業の負債額、2020年始より14%増加。

(6/16 ベラパン通信)

●2020年1月～4月、ベラルーシ貿易高、昨年対比17%減少。

(6/10 ベラパン通信)

●カランケヴィチ・ベラルーシエネルギー大臣、ノバク露エネルギー大臣と電話会談(6/9)

両者は、ロシア産天然ガスのベラルーシ供給条件に関し意見交換を行った。ベラルーシ側は、事業者間の熱量を考慮したガス価格に関する相違の解決を求め、ガスプロム・トランスガス・ベラルーシ社に対し、ガス価格算定方法の開示要請をしている。また、ベラルーシ側は、ロシア産天然ガスが欧州向けではスポット契約、長期契約においても価格下落傾向にあることに関連し、ベラルーシ向けの天然ガスの価格の見直しの必要性を指摘している。

(6/9 ベラパン通信)

軍事・内政

●ベラルーシ各都市で「連帯」運動が発生し、ベラルーシ警察特殊部隊が出動。

(6/22 ベラパン通信)

●ババリコ氏支援の署名、43万を超える。

(6/19 ベラパン通信)

●ババリコ大統領選候補、及び同氏の息子、署名の提出に出掛けた後、失踪。

(6/18 ベラパン通信)

●ベルサト社記者、ババリコ氏の撮影後に逮捕

(6/17 ベラパン通信)

●ベラルーシ各地で、大統領選挙活動に関連し逮捕・拘留された活動家との「連帯」を示すデモが発生。

(6/14 ベラパン通信)

●ベラルーシ政府当局、ベルガスプロム銀行(露ガスプロムバンク社、露ガスプロム社が49.8%の株式を保有するベラルーシの銀行。)に対する強制捜査

(6/11 ベラパン通信)

(了)